

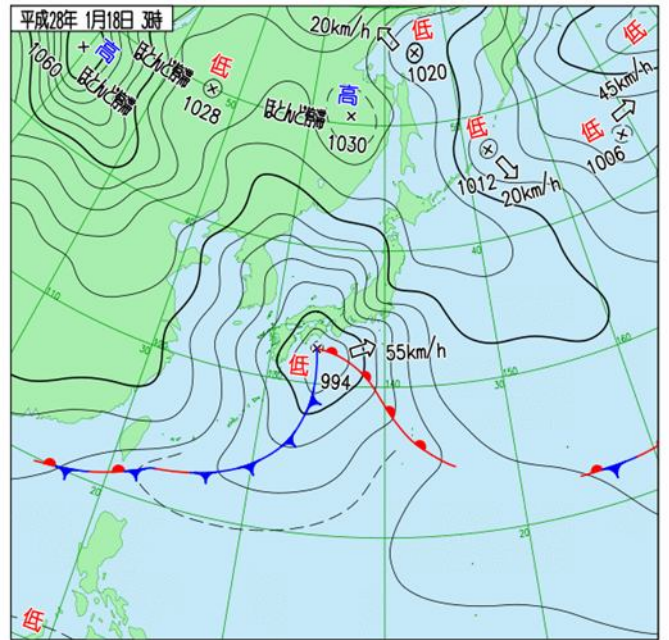
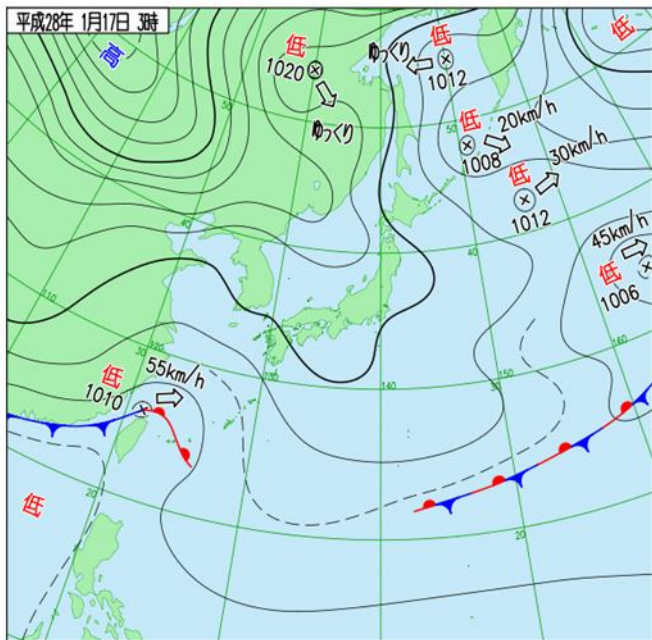
## 「関東の雪(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

1月18日未明から午前中にかけて、関東全域で雪となった。東京でも重い雪が積もった。わずか3cmの積雪だったが、雪に慣れていない鉄道各線は、大混乱に陥った。特に多摩地区の鉄道はほとんど麻痺状態で、教員の中にも立往生が続出、西武線、京王線、中央線で通学する子どもたちにも、遅刻や欠席が相次いだ。

南関東に雪を降らせた原因は、「南岸低気圧」である。台湾付近に発生して、沖縄の西から九州の南、その後列島の南岸を、這うように足早に発達しながら東進する、前線を伴った移動性の低気圧である。

左の2図は、1月17日の午前3時頃に、台湾の北で発生した低気圧が、12時間後に吐噶喇列島付近に達し、発達した様子である。気圧も1010hPaから、1002hPaまで低下している。



更に12時間後の1月18日午前3時の天気図(上図)を見ると、低気圧は四国沖にあり、気圧も994hPaと、勢力を増している。この時点で、何も起きなければ、南関東は全域雨になったはずだ。しかし、上空に寒気が流れ込んだ為に、雪となったのである。

今回の南岸低気圧は、雪だけでなく、強風ももたらした。低気圧の速度は、時速55kmと速い。乗用車くらいの速度だ。秒速にすると15m/sとなる。低気圧という「空気のかたまり」が秒速15mで東に移動したのだから、風が強くて当たり前である。下写真は、18日早朝の茗荷谷駅前である。風が非常に強かった。

